

## ポリシー・ブリーフィング

### グローバル・ギャグ・ルールの影響

#### はじめに

国際家族計画連盟（IPPF）はすべての人々のセクシュアル/リプロダクティブヘルス/ライツのために保健サービスを提供するグローバルプロバイダーであり、アドボカシーを行う機関です。134の加盟協会（MA）が一丸となったグローバルな運動体として、世界145カ国にあるコミュニティと個人とともに活動しています。さらに26のパートナー団体を通じ、セクシュアル/リプロダクティブヘルス/ライツを21カ国で推進しています。セクシュアル/リプロダクティブヘルス/ライツのチャンピオン（先進的な推進派）として、ジェンダーに基づく権力の不平等と闘います。セックスをするかしないか、それはいつ、誰とするか、その相手と親密な関係となるか、家族を築くかどうかなど、多くの人が直面する決断に表面化する問題。これらともIPPFは闘います。すべての人々にとって、愛することと自分のセクシュアリティを自然で大切な人生の一部として存在し、個人の選択が基本的な人権として尊重される世界の実現を目指しています。

中絶を含む質の高い（セクシュアル/リプロダクティブ）ヘルスケアを、すべての人々に提供することにIPPFはコミットしています。そのため、米国政府が発表した「国際保健援助において人命を守る」政策、別名「メキシコシティ政策」、「グローバル・ギャグ・ルール」の影響を直接受けています。この政策は女性がケアを受けることを認めず、市民社会組織に沈黙を強いて、女性と医療提供者との関係を分断します。グローバル・ギャグ・ルールがなくなる限り、IPPFと加盟協会が米国政府の援助金を受け取るためには「もっとも質の高いヘルスケアをすべての人々に届ける」という約束を破らざるを得ません。すべての女性、男性、子ども、若者たちが傷つけられたり、差別を受けたりすることなく、安全で尊厳のある充実したリプロダクティブヘルスを人生において実現する権利がある。そんな世界をIPPFは目指しています。しかしグローバル・ギャグ・ルールはリプロダクティブヘルスを巡る自由な権利を制限し、中絶にまつわるケアを認めません。結果として、意図しない妊娠を女性に強制します。

#### グローバル・ギャグ・ルールとは

グローバル・ギャグ・ルールは米国の大統領が署名する行政命令です。過去に何度か導

入されていますが、最近では2017年1月23日にドナルド・トランプ大統領により導入されました。米国の資金援助と技術支援を受ける外国のNGOに適用され、2018年だけで77億米ドルもの損失が予想されています。<sup>1</sup> 家族計画その他に関連したグローバルヘルス活動に必要な資金を米国政府（米国国際開発庁を含む）から援助を受ける組織・団体は、<sup>2</sup> 以下のことを禁じられます。<sup>3</sup>

- 中絶を行うこと
- 女性に中絶を選択肢として提示すること
- 中絶を求めて、例えば政府に中絶ケアへのアクセスを増やすこと、または先進的な法改正を求めるために啓発活動を行うこと
- 中絶を実施する機関に女性を照会すること

団体はどのような資金を使用しても（米国の援助を使用せず、独自の資金でも）、上記の行為を行うことが許されません。1ドルでも米国の資金を受け取ったら、逆行する極端なアメリカのルールに従わなければなりません。

この政策によって、IPPFが人々の命を救うために必要とする援助のうち、最大で1億ドルの活動費を失う可能性があります。マリー・ストープス・インターナショナルの試算では、グローバル・ギャグ・ルールによって世界中で3,000万ドルもの資金喪失が見込まれています。<sup>4</sup> 資金喪失の影響がもっとも現れるのが現場です。

しかし、グローバル・ギャグ・ルールの真の影響は財政的な問題ではありません。提供できるケアの範囲と、アドボカシーとグローバルな政策決定で想定される活動の範囲が、グローバル・ギャグ・ルールによって少しずつ狭められて

てしまいます。組織に恐怖を感じさせ、自己検閲をさせます。米国の資金を受けられない可能性やドナー（援助国・援助機関）との関係悪化を憂慮するあまり、コンプライアンスを重視して活動を過度に制限してしまい、パートナーシップとネットワーク活動がおざなりになってしまうか

**IPPFの試算：1億ドルあればできること**

- ◇ 480万件の意図しない妊娠を防ぐ
- ◇ 170万件の安全でない中絶を防ぐ
- ◇ 2万件の妊産婦死亡を防ぐ
- ◇ 7,000万個のコンドームを配布し、意図しない妊娠、HIVなどの性感染症を防ぐ
- ◇ 72万5,000件のHIV検査を行い、感染しているかどうか調べる
- ◇ 27万5,000人のHIVとともに生きる妊婦に母体の健康と母子感染予防のための保健医療ケアを提供する
- ◇ 52万5,000件の性感染症を治療する

<sup>1</sup> 本ブリーフィングでは「グローバル・ギャグ・ルール」という単語を使用します。

<sup>2</sup> メキシコシティ政策の詳細については以下を参照：Kaiser Family Foundation. May 15, 2018: <https://www.kff.org/global-health-policy/fact-sheet/mexico-city-policy-explainer/>

<sup>3</sup> See USAID: Standard Provisions for Non-US Nongovernmental Organizations, RAA28. May 2017 p 79 <https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1868/303maa.pdf>

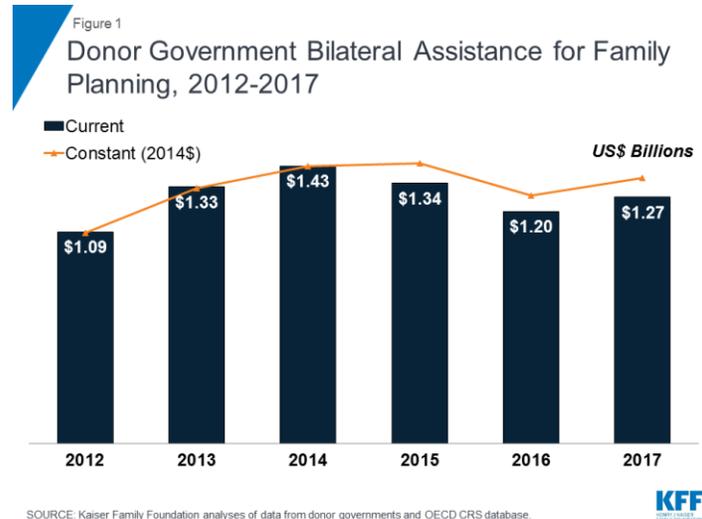
<sup>4</sup> Do you really know the Global Gag Rule? PAI. <http://trumpglobalgagrule.pai.org/wp-content/uploads/2017/04/Do-You-Really-Know-the-Global-Gag-Rule-FINAL.pdf>

かもしれません。グローバル・ギャグ・ルールで実際に起きるのは、医療従事者が解雇され、HIV と家族計画の支援プログラムが廃止され、女性、少女とその家族が保健医療ケアを受けられなくなることです。クリニックが次々に閉鎖される今、医療従事者がコミュニティと苦勞しながら築き上げてきた信頼が壊れています。ヘルスケアを受けられる人がどんどん減り、HIV などの性感染症の罹患率、安全でない中絶の数、防ぐことのできた死の数が増えるかもしれません。

### 政治的・財政的な支援の必要性～不透明な未来～

すでに苦難の多い家族計画運動にとって、グローバル・ギャグ・ルールの再導入はさらに難しい時代をもたらしました。

2017 年時点では 12.7 億ドルまで増加した援助資金も、インフレと通貨変動のボーナスを差し引いても、2 年連続減少したあとの増加でした。それでも、2014 年の 14.3 億ドルという最高値には届きません。<sup>5</sup> 生殖の自由に対する逆行的で極端な政策を押し出しつつも、2017 年当時、米国はまだ家族計画を支える最大のドナー国で、二国間（二者間）で資金援助される総額の 38% を占めていました。英国は 22% 拠出しており、二国間供与の当事者としては 2 位、その後はオランダ（15%）、スウェーデン（9%）、カナダ（5%）と続いていました。<sup>6</sup> 2017 年にわずかに増加に転じたとは言え、避妊関連のヘルスケアへの資金援助は危機的なレベルです。中低所得国では、政府（ドナー国と当事国を含む）だけでは避妊ケアに必要な費用の 18% しかカバーできず、その国に住む女性と家族で残り 82% の負担をするしかありません。<sup>7</sup>



### 現実への影響

過激かつ極端な米国政府の姿勢に対抗するため、SheDecidesなどの活動を通して力を合わせるドナー国の努力にもかかわらず、グローバル・ギャグ・ルールの影響は急激で、ショッキングなものであり、危険です。サハラ以南のアフリカ、南アジア、中央アメリカと南米の31のIPPF加盟協会が援助を停止され、中には年間予算の70%を失った加盟協会もあります。看護師をはじめとした医療従事者が解雇され、クリニックが閉鎖され、人々はケア

<sup>5</sup> Donor Government Funding for Family Planning in 2017, Kaiser Family Foundation, 12 November 2018.

<https://www.kff.org/report-section/donor-government-funding-for-family-planning-in-2017-report/>

<sup>6</sup> Ibid.

<sup>7</sup> Global Contraceptive Commodity Gap Analysis 2018. See Reproductive Health Supplies Coalition, 2018.

[https://www.rhsupplies.org/uploads/tx\\_rhscpublications/Commodity\\_Gap\\_Analysis-2018.pdf](https://www.rhsupplies.org/uploads/tx_rhscpublications/Commodity_Gap_Analysis-2018.pdf)

を受けることができません。IPPFエチオピア（FGAE）は800万ドルの援助がなくなり、全国に構築された堅固なヘルスケア・ネットワークが機能できなくなっています。IPPFボツワナ（BFWA）の年間運営予算の70%にあたる金額を得ることができなくなり、ボツワナの農村部の住民はヘルスケアを受けられません。影響は特定の地域に限られたことではありません。長年の紛争によって基礎的なヘルスケア・ネットワークの復興もままならないIPPFアフガニスタン（AFGA）は、若者向けのプログラムとアウトリーチ活動（モバイルクリニックなど）を廃止しなければなりませんでした。グアテマラ、ホンジュラス、コロンビアの加盟協会はジカ熱予防とケアのプロジェクトを継続できなくなったため、妊婦への助言や支援ができていません。

## 結び

生殖における正義の実現を求めるIPPFの闘いは、米国内の政治状況のみに左右されるものではありません。今こそ加盟協会、パートナー団体、味方となる人々と立ち上がり、すべての個人がままならない状況や抑圧に負けることなく、思い通りに生き、愛することができる世界の実現を求めます。

政府は国際、国内のあらゆるレベルにおいてセクシュアル/リプロダクティブヘルスのための資金を増やし、命に関わるケアを必要とする人が誰でもすぐに受けられるようにし、グローバル・ギャグ・ルールがコミュニティに与える影響を軽減しなければなりません。さらに、あらゆるレベルの政府、政治指導者に草の根レベルのアドボカシーへの支援を呼びかけ、この政策によってもっとも影響を受ける人々、特に若者と周縁化された女性と少女たち、アウトリーチが難しい社会グループの人々、もっとも脆弱でHIV感染のリスクが高い人々（キー・ポピュレーション）が沈黙させられないようにしなければなりません。

メディア、指導者、政策決定をする人々がもっと立ち上がり、逆行する政策に反対する声を上げ、人々が受けられるケアについて米国政府が一方的に決めつけることに反対しなければなりません。

最後に、私たちはジェンダー平等の実現のため闘い続けなければなりません。セクシュアル/リプロダクティブヘルス/ライツの実現なくして、ジェンダー平等は達成できません。女性、男性とその家族が健康な生活を送り、社会、経済、政治に自由に参加するためには、質の高いサービス、情報、教育を普遍的に受けられるしくみがなければなりません。グローバル・ギャグ・ルールは女性を沈黙させ、コミュニティを傷つけ、必要とするケアを覆します。ともに立ち上がってこの攻撃に耐え、あらゆる人々の生殖の自由のために闘いましょう。